

第6学年 図画工作科学習指導案

い組 男子 16 名 女子 17 名 計 33 名

指 導 者 奥 俊 明

1 題 材 みんなでコマ撮りアニメーション

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材は、部品の配置や動かす部分などを工夫し、粘土等で表現した場面をコマ撮りして、そのつながりから生まれる動きの面白さを生かして、アニメーションをつくる工作の題材である。

この期の子どもたちは、関心の対象が広がり、空想の世界に思いをはせ、自分なりのイメージをもって表現しようとする意欲が高まってきている。また、対象の造形的な特徴を生かし、発想し構想を練るなどして、見通しをもって表現活動を進めていくことができる。さらに、自分や対象を客観的にとらえ、自分や友達のよさをより一層感じるようになる。

そこで、本題材では、部品の形や色、配置や動き方等の造形的な視点で、表現を比較したり、自分のイメージと関係付けたりしながら、アニメーションを表現していく活動を通して、イメージした場面をコマ撮りしながら表現したい意欲を高め、アニメーションの構成を部品の形や色、配置や動き方等の造形的な視点で捉え、動きのある様子を発想・構想したり、友達の作品の工夫や面白さを味わう力を伸ばしたりし、イメージに合わせて粘土や iPad 等の材料や用具を適切に扱う技能を高めることをねらいとしている。

このように、コマをつなげることで生まれる動きの面白さを生かして、アニメーションをつくる題材は、中学校美術における、映像メディアを活用した題材へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う小麦粉粘土は、着色がよく、粘土を練り込み混色することができるため、自分の思いに合わせて表現しやすい材料の一つである。また、iPad の iMotion というアプリは、撮った画像をコマ送りすることができたり、画像を挿入・削除したりすることができ、多様な表現方法を試行することができる。これらの材料や用具を活用することで、動きを生かしたアニメーションを表現する楽しさを味わいながら、意欲的に取り組む活動を展開していくことができると考える。

そこで、本題材の展開にあたっては、動きを生かしたアニメーションへの思いや表現上の課題を具現化する題材のめあてや、活動のめあてを工夫する。また、試作したり活動を振り返ったりすることを通して、造形的な視点を見いださせたり、自分の思いやイメージと関係付けさせたりして、表現方法を工夫させる。

具体的には、まず、コマ撮りアニメーションをつくることへの思いを高めるために、子どもの関心のあるコマ撮りアニメーションを鑑賞させ、面白さについて話し合わせ、題材のめあてを設定する。そして、コマ撮りアニメーションに含まれる造形的な特徴を見いだしながら表現の見通しをもつことができるようにするために、教師が示すコマ撮りの作品を学級全体で試作し、工夫するポイントをまとめる。次に、イメージしたストーリーを具体的にアニメーションに表現することができるようにするために、見いだした造形的な視点とイメージとを関係付けさせながら表現させたり、できた作品を互いに鑑賞し合い、よさを交流させたりする。さらに、終末の鑑賞においては、これまでに気付いてきた造形的な視点を基に、できた作品を全体で鑑賞し、それぞれの作品の価値を認め合えるようにする。

これらの学習を通して、造形的な創造活動に主体的に取り組む態度を培い、材料や用具の特徴を生かして発想や構想をしたり、アニメーションのよさや美しさを感じ取ったりする能力を高めることができる。また、イメージを表現する際、多様な造形的な視点を基に、表現方法を取捨選択しながら考えることができるようになる。

このような学習を積み重ねることで、創造的にものごとを考えて表現したり、自分や周りのものごとの価値を感じたりしながら、形や色などを通して、社会や生活に主体的にかかわることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちはアニメーションへの興味関心について(※1)は、多くの子どもが、好意的に捉えている。しかし、8名の子どもが、静止画のよさを好意的に捉えている。どちらも造形的な価値がある。そこで、どちらの価値も大切にしながら、アニメーションへの興味関心が高まるような参考作品との出会いにしたい。動きを生かした物語の発想について(※2)は、登場人物を工夫するなど、多様な物語が発想されていた。しかし、本題材の特徴である「動き」を工夫した内容があまり見られない。そこで、動きの特徴に気付かせる発問等を通して、動きを工夫するよさを引き出し、題材のめあてとして設定する。アニメーションを工夫する視点への気付きについて(※3)は、部品の形や色の工夫や、写真を撮る角度

実態調査 6年い組 33名 (4月中旬実施)	
1 アニメーションへの興味関心について ※1	アニメーション(25名) 漫画(8名)
(好きな理由)	
・動きや音があって面白いから。	
・映像があると、実際に自分がその世界にいるように感じる。	
2 動きを生かした物語の発想について ※2	動きのある物語(19名) 動きが見られない物語(14名)
・同じ場所で話が展開する物語 ・会話のみで発展する物語	
3 アニメーションを工夫する視点への気付き ※3	・形や色の工夫 ・写真を撮る角度の変化
4 鑑賞活動について ※4	【友達作品を見ること】
好き(30名) 好きではない(3名)	
(好きではない理由)	
・鑑賞の視点が分からない ・有名な作品が見たい。	
【友達に作品を見せること】	
好き(16名) 好きではない(17名)	
(好きではない理由)	
・恥ずかしい	
5 粘土の適切な使い方について ※5	〈認識が十分ではない点〉
・触った後の手の処理	

度などに気付いている。しかし、配置や動かし方等の多様な造形的な視点を見いだすまでには至っていない。そこで、気付きを交流する時間を設定したり、造形的な視点に気付くことができるような参考作品を掲示したりする。鑑賞活動について(※4)は、多くの子どもが意欲的に取り組むことができている。しかし、友達作品を見ることに関して、「好きではない」と答えた子どもの理由に「鑑賞の視点が分からない」「有名な作品が見たい。」が挙げられる。また、自分の作品を見せることに関して、「好きではない」と答えた子どもの理由に、「恥ずかしい」が挙げられる。これらの理由から、自分や他者の作品の価値を感じる視点を十分にもてていないことが考えられる。そこで、造形的な視点を通してどのような作品のよさを感じるができるか交流する時間を設定する。粘土の適切な使い方について(※5)は、取扱い後の行動において認識が十分ではない点があった。そこで、ICT機器の活用と関連させながら粘土の使い方について毎時間確認したり、掲示資料を使っていつでも使い方を確認したりできるようにする。

(4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、コマ撮りアニメーションをつくることへの思いを高めるために、コマ撮りアニメーションを鑑賞し、静止画と比較しながらよさや面白さを交流させる。その際、子どもの感想や思いを基にした題材のめあてを設定し、表現への思いをつなぎ、高めていく。そして、造形的な視点を基に表現できるようにするために、参考作品の鑑賞やコマ撮りアニメーションの試作を学級全体で行い、見いだされた造形的な視点を基に、工夫するポイントとしてまとめる。

イ 「思いを表現する」段階では、豊かにイメージし、表現することができるようにするために、撮り直したり、自由に鑑賞したりすることを認め、試行錯誤できる場を設定する。その際、参考作品や友達作品と、自分たちの作品とを比較することを通して、部品の形や色、配置や動き方といった造形的な視点に着目して鑑賞させ、イメージをより豊かに作りだせるようにする。

ウ 「思いを味わう」段階では、様々な視点から鑑賞できるようにするために、題材全体を通して、子どもたちが気付いてきた造形的な視点を基に鑑賞させる。また、イメージや造形的な視点を基に、比較・関係付けて表現を豊かにできたことを実感させるために、製作過程を振り返り、感想を交流する。

3 目 標

- (1) コマ撮りアニメーションの仕組みに興味をもち、動きを工夫して表現する面白さに気付き、進んで表現することができる。
- (2) 部品の形や色、配置や動き方等を視点にして、場面をイメージしたり、友達のよさに気付き、自分の表現に生かしたりすることができる。
- (3) ・ コマ撮りアニメーションの仕組みや部品の形や色、配置や動き方等の造形的な視点を理解することができる。
・ 自分の表したいことと照らし合わせながら、登場人物等を材料の特徴を生かしてつくったり、ipad での画像の撮り方を工夫したりすることができる。

4 指導計画（全 8 時間）

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 参考作品を基に、コマ撮りアニメーションの面白さについて話し合う。 コマを重ねると動きが生まれて面白いな。 2 題材のめあてについて話し合う。 動きを工夫して、みんなでコマ撮りアニメーションをつくろう。 【工夫するポイント】 (授業で中心となる造形的な視点) ○部品の形や色、大きさ ○部品の配置（近景・中景・遠景）や動き方	↑ 2	○ コマ撮りアニメーションの面白さに気付くことができるようにするために、紙芝居と比較しながら、パラパラ漫画やコマ撮りアニメーションの動画を見せ、共通点や差異点を見いだす。 ○ 活動の内容を焦点化するために、見いだした共通点や差異点から、コマ撮りアニメーションならではの特徴（動き）に着目して、グループで製作を進めることを確認し、題材のめあてを設定する。 ○ 粘土や ipad などの用具を適切に使うことができるようにするために、教師が実際にやって見せ、粘土や ipad などの用具の適切な使い方について気付いたことを話し合わせる。また、随時確認できるようにするために、使い方について掲示しておく。
	3 コマ撮りアニメーションをつくる。 (1) アニメーションのつくり方を知る。 (2) 表したいストーリーについてグループで話し合う。 ロケットに乗って宇宙を冒険している場面にしたいな。 (3) グループで話し合いながら構成や配置等を考えてつくる。 (4) 友達のよさを生かして、さらに工夫する。 もっと、部品を近景に置いたほうが、迫力が出そうだね。	× 5 (本時 4 / 5)	○ 工夫するポイントを基に、自分のイメージをより具体化できるようにするために、参考作品の鑑賞や試作を通して気付いた工夫するための造形的な視点を発表させ、工夫するポイントとして整理する。 ○ 多様に発想することができる面白さや、イメージのテーマを共有し、他グループの作品を鑑賞することへの意欲を高めるために、学校内を舞台にした「○○大冒険」という共通テーマの下、内容についてグループで話し合わせ、多様な場所や材料等を生かした表現となるようにする。 ○ 工夫するポイントを基に、イメージしたストーリーを表すことができるようにするために、撮り直したり、構成を考え直したりすることを認め、試行錯誤する場を設定する。
思いを表現する	5 友達と表現を紹介し合い、お互いの工夫や発想のよさを認め合う。 コマを重ねると、動きが生まれて面白いね。 テレビで見るアニメの動きを見ながら、もっと工夫してつくってみたい。	1	○ 自分の製作過程や、友達と交流したよさを感じ取ることができるようにするために、工夫するポイントを基に学習活動を振り返らせ、感想をまとめ、交流させる。
思いを味わう			

5 本 時（6／8）

(1) 目 標

コマ撮りアニメーションづくりに興味をもち、自分たちのアニメーションをよりよくしていく活動を通して、部品の形や色、配置や動き方といった造形的な視点を基に、動きを工夫したアニメーションを考え、自分たちの思いに合わせて表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、造形的な視点を基にしたより豊かな表現にしていくために、自分たちの作品と、参考作品を、動きを観点に比較させることで、表現の工夫に気付かせ、「もっと動きを工夫した表現にしたい」という思いを基にした活動のめあてを設定する。また、イメージと造形的な視点を基に考えた工夫する点を関係付け、イメージを豊かにできたことを実感させるために、「イメージに合わせて表現できたのはなぜだろう。」と問い、製作過程を振り返らせる。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 題材のめあてを確認する。 動きを工夫して、みんなでコマ撮りアニメーションをつくろう。	(分) ↑	○ 本時の学習や、表現の見通しをもつことができるようにするために、第1時で設定した題材のめあてを振り返る。 ○ アニメーションをつくりだすことへの思いを高めるために、自分たちの作品と友達の作品や参考作品を、見いだしてきた工夫するポイントを基に比較させ、製作上の成果や課題をまとめる。 その際、各グループの成果や課題を交流・整理し、本時の活動のめあてとして設定する。
	2 自分たちの作品と参考作品を比較し、感想を交流する。 3 活動のめあてを設定する。 イメージや動きをもっと工夫するには、どうすればいいだろうか。	10	
	4 製作する。 イメージ ロケットに乗って冒険をしている様子。	↓	
思いを表現する	自分たちの作品 友達や参考作品 友達の作品は、部品の動き方が滑らかな。 部品の配置をはっきり分けた方が分かりやすいな。 【工夫するポイント】 ○部品の形や色、大きさ ○部品の配置や動き方（近景・中景・遠景）	30	○ ipad の写真機能や粘土の適切な使い方を理解できるようにするために、機器や粘土の使い方を確認する。その際、活動中にいつでも振り返ることができるように黒板に使い方を掲示しておく。 ○ 他グループとの交流を促したり、多様な材料から発想を広げたりすることができるようにするために、自由にスクリーンに映像を流させたり、材料コーナー設置したりする。 ○ 多様な造形的な視点を基に、表現を豊かにできるようにするために、各グループの実態に合わせて、参考作品や他グループの作品を鑑賞させ、「どんな工夫するポイントが自分たちの作品に生かせそうかな。」と問い、自分たちの作品と比較させ、工夫できるポイントを基に考えたことと、イメージとを関係付けさせる。
	A班は、腕の動き方を細かく撮って、滑らかな動きにしているな。 もっと、遠景に星や惑星をちりばめた方が宇宙の様子が伝わりそうだな。 新しいイメージ 宇宙の様子が分かるように遠景に、星を増やそう。そして、ロケットの動きをもっと滑らかにしてみよう。	↓	
思いを味わう	5 本時を振り返り、自分たちが工夫したことを発表する。 部品の配置や動き方を工夫すると、イメージしたことがよく表せたな。今度は、他の班に見てもらいながら、もっと動きを工夫できるようにしていこう。	5 ↓	○ 工夫するポイントを基にコマ撮りアニメーションをつくりだした喜びと、友達と互いに表現し鑑賞したよさを味わうことができるようにするために、「今日の学習で、工夫してつくれたのはなぜだろう。」と問い、製作過程を振り返りながら、表現にこだわるよさや友達との交流の価値に気付かせる。